

**介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会全国設置・運営業務
協議会報告書**

1. 協議会概要

(1) 協議会情報

協議会名	岡山県協議会
推進枠・一般枠	一般枠
協議会の特性(得意分野や検討フィールド等の特徴)	介護ロボットや福祉用具の検討や選定を行う介護支援専門員やセラピストと福祉用具等を提供する業者が集まっており、現場の声を収集しやすい特性がある
協議会の目標	<input checked="" type="checkbox"/> 介護ロボットなどに関して開発すべき具体的機能や機器・システムを提案する

(2) 協議会構成員

役割	氏名	所属(役職)	職種
委員長	檜原伸二	松風会ケアハウス サンライフ・カドタ	作業療法士
ニーズ委員	杉本 努	佐藤病院	作業療法士
	唐川 佳明	介護老人保健施設福寿荘	作業療法士
	松本 友子	社会福祉法人敬友会	介護支援専門員
	秋山 尚子	泉介護支援センター	介護支援専門員
シーズ委員	橋本 泰典	橋本義肢製作所	
	植村 仁	神戸学院大学	大学教員
その他の委員 (自治体など)	中島 悌吾	岡山市保健福祉局	
	日下 裕介	岡山市保健福祉局	

(3) 担当プロジェクトコーディネーター

ニーズ	山田 太一	(社)石川記念会 HITO病院	作業療法士
シーズ	坊岡 正之	結人の紬	

2. 協議会活動実績					
日にち	項目	詳細			
7月4日	第1回ワーキング	1)出席者	ニーズ PC	2名 2名	シーズ その他 1名 1名
		2)概要	今年度の方向性についての検討		
		3)PCコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・時間にも限りがあるため、効率よく検討を進めていくのがよい ・アンケート調査を行う際には、事前にデータ集計を行ってくれるシーズの委員に参加してもらい作成をしていく 		
8月7日	第1回協議会	1)出席者	ニーズ PC	5名 2名	シーズ その他 1名 1名
		2)概要	ニーズの決定と調査方法についての検討		
		3)PCコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット導入による効果尺度を考えた検討が必要である ・時間的・精神的・心理的なストレスなど、介護ロボットや福祉用具を選ぶ時に何のデータをもとにしているのかを調査してはどうか 		
10月9日	第2回協議会	1)出席者	ニーズ PC	5名 2名	シーズ その他 1名 4名
		2)概要	アンケート調査の報告および今後の開発に向けた検討		
		3)PCコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員やリハビリ職、介護職において同じ言葉の共通理解はできていないのであれば、共通言語として認識し、お互いが求めるものを選び出すことができればよいのではないか ・福祉用具の選定だけでなく、書類作成につながる(選定した根拠を示せる)ものとなればよい ・退院時にセラピストが対象者の生活状況についてチェックを行い、それを情報として福祉用具の選定につながればよい 		
10月21日	第2回ワーキング	1)出席者	ニーズ PC	5名 0名	シーズ その他 1名 1名
		2)概要	福祉用具の選定を行う際(今回は移動手段に限定)の検索方法について、検索項目を検討する		
11月27日	第3回協議会	1)出席者	ニーズ PC	5名 1名	シーズ その他 2名 3名
		2)概要	①報告事項 ・推進委員会の報告 ②検討事項 ・介護ロボットの検索項目(身体状況について) ③事務連絡 ・楽楽精算 ・2019年度源泉徴収について ④その他 ・介護ロボットの普及拠点事業(介護ロボット地域フォーラム)について		
		3)PCコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・検索を行うにあたり、外せない項目があれば押さえておく ・今回のロボットを使用する場所やタイミングは、どのような時かを把握しておく ・使い方の手順を明確にしておく ・移動における福祉用具に絞って検討を進めてきたが、さらに車いすに絞って検討をしてみてもどうか 		

12月9日	第3回ワーキング	1)出席者	ニーズ	4名	シーズ	1名
			PC	0名	その他	1名
		2)概要	福祉用具の選定を行う際の項目について検討する			
1月16日	第4回協議会	1)出席者	ニーズ	4名	シーズ	2名
			PC	2名	その他	3名
		2)概要	①報告事項 ・介護ロボット推進委員会の報告 ②検討事項 ・介護ロボットの検索プログラムについて ③その他 ・介護ロボット岡山地域フォーラム ・成果報告会の手引きについて			
		3)PCコメント	・福祉用具の検索を行った際に、その選定理由も添付されるようになればよい			

3. ニーズの明確化: ニーズ調査・分析

(1) ニーズ調査の概要(調査方法、整理・分析の手法等)

課題整理・分析 の流れ	アンケート調査(現状把握)
	↓ ヒアリング調査(アンケートで明らかになったニーズの掘り下げ)
	↓ ブレインストーミング(真のニーズの明確化)

(2) 調査の実施概要

調査項目	アンケート	備考:
実施日(期間)	2019年8月10日~2019年10月5日	
実施場所	介護支援センター、社会福祉法人、病院、介護老人保健施設	
調査目的	介護支援専門員およびリハビリ職の福祉用具の選定の際の調査	
対象者	介護支援専門員およびリハビリ職	
対象人数	介護支援専門員 68名、リハビリ職27名	
調査項目	<p>【介護支援専門員を対象としたアンケート調査(自由記載)の報告】</p> <p>①介護支援専門員の方が福祉用具を選ぶ場合、何を根拠に選んでいますか？</p> <p>②介護支援専門員の方が事業者を選ぶ場合に、何を根拠に選んでいますか？</p> <p>③福祉用具選定で困っていることはありますか？</p> <p>【リハビリ職を対象としたアンケート調査(自由記載)の報告】</p> <p>対象者に適応した福祉用具を選ぶ時に考慮していることを教えてください</p> <p>①身体機能面</p> <p>②精神機能面</p> <p>③環境</p>	
調査方法	上記内容に対し、自由記載	
調査結果	<p>【介護支援専門員を対象としたアンケート調査(自由記載)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具を選ぶ根拠としては、身体状況をみていることが多い ・業者を選定する際、納品・緊急時の対応に業者の能力に依存していることが多い ・福祉用具の選定において介護支援専門員としての経験値にはあまり差はなく、業者やリハビリ職へ相談して決定していることが多かった ・福祉用具の選定において困っていないという方が意外と多かった <p>【リハビリ職を対象としたアンケート調査(自由記載)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ職は患者状態はみれるが、福祉用具についての知識が少ない ・福祉用具全般についての回答ではなく、トイレ動作などある動作に限定した回答もあった 	

(3) 調査結果のまとめ

【介護支援専門員を対象としたアンケート調査(自由記載)の報告(アンケート結果より)】

- ・福祉用具を選ぶ根拠としては身体状況をみていることが多い
- ・業者を選定する際、納品・緊急時の対応や業者の能力に依存していることが多い
- ・福祉用具の選定において介護支援専門員としての経験値にはあまり差はなく、業者やリハビリ職への相談して決定していることが多かった

【リハビリ職を対象としたアンケート調査(自由記載)の報告(アンケート結果より)】

- ・リハビリ職は患者状態はみれるが、福祉用具についての知識が少ない
- ・福祉用具全般についての回答ではなく、トイレ動作などある動作に限定した回答もあった

4. ニーズの明確化：課題分析

(1) 課題の抽出(図示、話し合いのプロセス等。記載方法は自由)

・介護ロボットや福祉用具の検討や選定方法の改善
・福祉用具の選定を行う際(今回は移動手段に限定)の検索方法について、次の①と②の視点から検索項目を検討する。①身体機能、精神機能、生活環境、②生活状況、生活機能、能力
・開発側としては、順番はあまり重要ではない。人間が行っているものを機械に行ってもらい、人間が行っていることをよく理解し、どうしても押さえておきたいところをはっきりとさせておく。絵コンテなどを使用し、協議会としての共通認識をもっておくことが大切である
・共通認識：介護支援専門員やセラピストが福祉用具を選定する際に経験年数にかかわらず、その方に適した福祉用具の選定ができるようなロボットの開発を目的とする
・最終的なロボットとしては、身体機能面、精神面、生活環境、対象者の要望などを踏まえながら検索できるものを作製したいが、今回は介護認定調査の23項目などを活用しながら、今年度はシンプルに開発を進めていく

(2) 解決すべき課題

分野と項目		その他 ⑧介護ロボットや福祉用具の検討や選定を容易にするロボット
具体的な課題		介護ロボットや福祉用具の検討や選定をする際に、担当者はどのような項目をもとに選定しているのか
誰にとっての課題か		介護ロボットや福祉用具の検討や選定をする側とそれを提供される対象者
課題が生じる場面 (現状)	いつ	介護ロボットや福祉用具の検討や選定をするとき
	どこで	病院、施設、在宅など
	誰が	提供者と対象者
	どのように	本当に求められる介護ロボットや福祉用具が提供されていない
この課題を選択した理由		介護支援専門員やセラピストの経験値に関係なく誰でもある一定基準の介護ロボットや福祉用具が提供され、業務の時間的・精神的負担の軽減が図れる

(3) 課題が解決した時のあるべき姿

誰にとっての解決になるか	①介護支援専門員、②セラピスト、③対象者
解決できた場面の想定	介護ロボットや福祉用具の検討や選定をする際に、時間的にも精神的にもストレスが軽減され、対象者にふさわしいサービス提供ができる

(4)到達目標(わかりやすく具体的に)

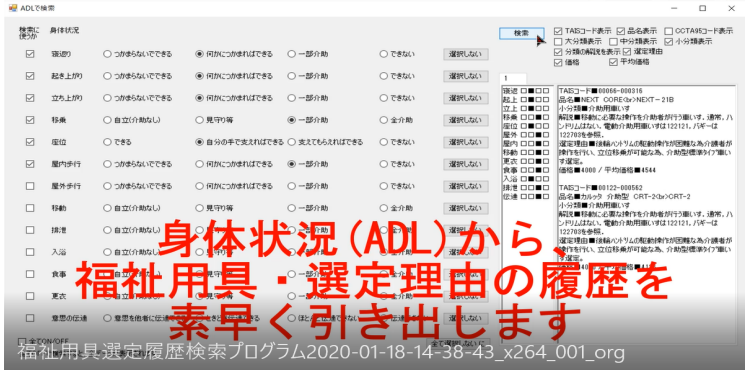
対象者		①介護支援専門員、②セラピスト
場面	いつ	介護ロボットや福祉用具の検討や選定をするとき
	どこで	病院、施設、在宅など
	何を	職種や経験年数にかかわらず、対象者の生活に適した福祉用具の選定
方法(どのように)		福祉用具の検索システムをつくり、対象者の生活状況や障害の程度を入力することにより、その方に適した福祉用具を複数選び出し、その中から最も適した福祉用具を選定できるようにする

(5)ロボット導入効果の評価方法(量的・質的)

移動動作に限定した検索システムを作製し、現場の介護支援専門員に実際に使用してもらい、アンケート調査を行う

5. 課題解決のための検討：課題解決のための機器（新規ロボット等）のアイデア

（１）アイデアの概要（機器のイメージ）

機器の名称	適切な福祉用具選定をするための福祉用具検索ロボット	
技術要素	① センサー系	なし
	② 知能系	なし
	③ 駆動系	なし
	④ その他	その他（選択・活用支援）
想定される購入者	病院、施設など	
想定される利用者	介護支援専門員、リハビリ職など	
想定される価格	5万円	
利用場所	病院、施設、在宅など	
具体的な利用場面	身体機能や生活環境の変化において福祉用具の選定が必要な場面	
アイデアのイメージ（図・絵等）		
必要な機能・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく一般的なパーソナルコンピュータ ・大量の「要介護認定調査項目」や「福祉用具サービス計画書」データ。電子化されたもの ・テクノエイド協会の福祉用具検索システムからseleniumでスクレイピングされたTAISコードとCCTA95の関連性についてのデータ。※スクレイピングについては許可を得ている 	
期待される導入効果	1) 直接効果	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に適した福祉用具が選定されることによって生活の質が向上する ・介護支援専門員やリハビリ職などが経験年数や知識に関係なく、誰でもある一定基準の福祉用具が選定できる
	2) 間接効果	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の時間的・精神的負担が軽減される
機器を導入する上での今後の検討課題（確認すべき点）	身体機能や精神機能、生活環境、利用者の意向など検索するための項目をどのように決めていくかや、選んだ福祉用具が利用者に本当に適合していたかをどのように判断していくか	

新規ロボット等導入による課題解決の評価方法 (量的・質的)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具検索ロボットを作製し、現場の介護支援専門員やセラピストなどに実際に使用してもらい、アンケート調査を行う ・利用者の福祉用具の適合状況や生活状況を確認する 	
既存の機器との相違点と優位性	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の身体機能や精神機能、生活環境などから、より適した福祉用具が選択されることにより、生活の質の維持・向上が図れる ・福祉用具サービス計画書に関するソフトウェア・サービスは複数存在するが、項目入力の簡素化やデータの管理、用具の管理が中心である ・当福祉用具検索ロボットは、過去の大量データを利用し、類似ケースを洗い出す。福祉用具の選定および選定理由の候補を自動的に洗い出すことが主要機能である ・さらに、選定される用具に関する分類情報や解説を自動付与し、福祉用具選定を補助するものである 	
利活用・普及の場面で想定される阻害要因並びにその解決策	検索された福祉用具が利用者にとって、本当に適合したものであったかどうかの判断が難しいため、福祉用具の利用の目的などデータを蓄積しながら精度を高めていく必要がある	
アイデアの評価	実現可能性	全国レベルのビッグデータが活用できれば可能
	技術	検索項目の絞り込みができれば技術としては可能
	開発期間	3年
	市場性	あり